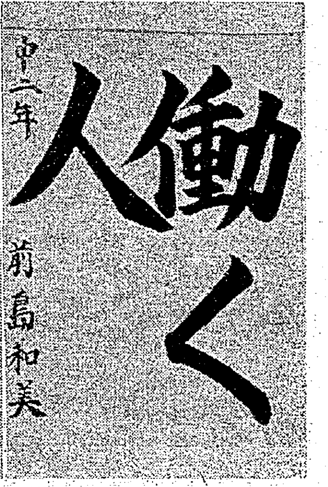
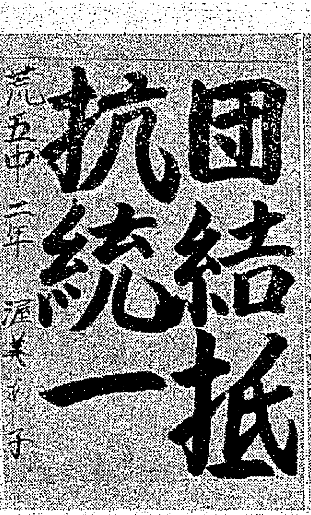
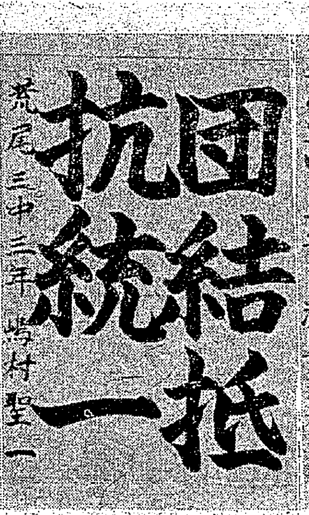


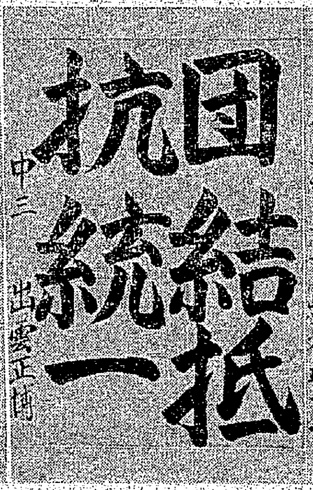
地賞


団結抵抗統一
荒五中二年

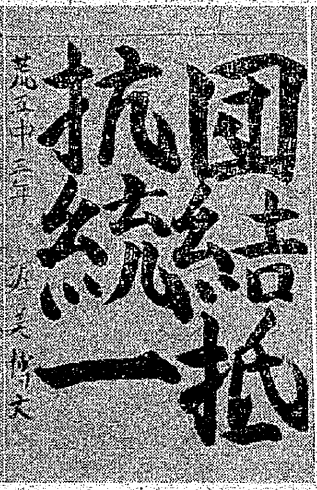
人賞（三川宮の前分会）


団結抵抗統一
荒尾三中三年
嶋村聖一

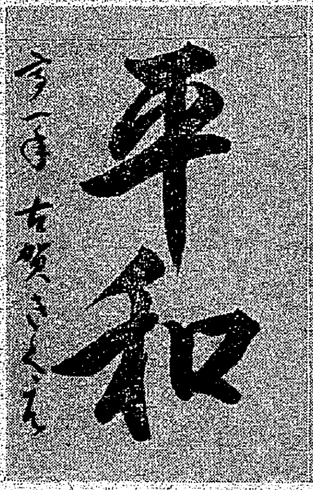
天賞（若葉町分会）


団結抵抗統一
中三
出雲正博

地賞（四山福二分会）


団結抵抗統一
荒五中三年

人賞（三川宮の前分会）



入選（宮の前分会）

私のおとうさん

緑ケ丘小学校六年　**田代智子**

私の父は、とても太っています。とてもユーモアな面もあれば、きびしい面もあります。私が、まじめに話しているときも、おもしろがって、ふざけたりします。

ところが父は、自分にきにくわないことがあると、母をおこり、私もしかられることがあります。私は、そんなときの父はきらいです。

自分のいうとおりにならないとおこるのは勝手だと思います。でも、私は父がきらいで母が好きとはいえません。私には姉妹がいないので、どちらかが好きになると、好きじゃない方が一人ぼっちになって、かわいそうになります。だから、二人とも好きになったり二人ともきらいになったりします。

父は、七八年ほど前から鯉をかっています　はじめは、せん水も一つだったのを三つにふやし、鯉もたくさんふえました。私も父のバイクにのって、長洲に鯉を買いに行きました。

私もたまには、父にねだって金魚を買ってもらったりしました。せん水には、黄金、紅白、三色などの鯉がいます。でも、飛び出したりして、だいぶ死にました。

そのたびに、父はなんとなくさびしそうな顔をします。父は、この鯉を見るのが、何よりの楽しみなので、私も母も鯉を死なせないようにとてもきをつけています。

また、父はいろいろな役をしています。会社では保安委員、組合では副議長になっています。地域では分会長PTAは学級委員をしています。まだほかにも、役員をしていますので、とてもいそがしく、日曜日でもめったに家にいることはありません。たまにいるとせん水の水かえなどをし、あとでこしがいたいといって、あんまをさせられます。

父は、好ききらいがはげしく、やさいものもあまり好きではありません。母は、やさいものを食べさせようと苦労しています。そしてときどき「血あつが高くなった」といって母を心配させます。だからといって、身体に異常があるわけではなく、健康体の方にはいります。

父はいつも「生命を守るためには、どんなに苦しいことがあっても、なしとげなければならない」といいます。それから「みんなが幸福になるためには生命をなげすててもがんばる」といいます。

父の考えているとおりの世の中が、一日も早くくる日を楽しみにまっています。

僕のお父さん

勝立中一年　**豊田一生**

僕の住む町は、炭鉱の町だ。僕の父も炭鉱に勤めている。だが父は、この会社に対立している。なぜ対立しているかというといろいろある。

だが、いま一番大きく対立しているのは、CO患者（一酸化炭素中毒）の補償問題であると、ぼくは思う。

CO患者の人たちの数は、百名余り。いまでは、ほんの少し健康になっている。

だがその裏には、手が不自由な人とか、足が不自由な人とか、体の不自由な人とか、頭が悪い（一年生の問題がようやく解ける）ような状態だ。中には、ひどいことに、たばこの火が手についても少も感じない人もいる。

これよりもまだまだひどいのは、死んだ人の数が四百名余りもいる。その人たちはなにもしないのに、人間の一番大切な命を会社の不十分な点検のために取られてしまったのです。ほんとうにかわいそうだと思う。

まだかわいそうな人たちがいます。その人たちは、CO患者の人たちと遺族の人たちだ。

補償もあまりされず、毎日苦しい生活をおくっているのです。

父たちは、会社に対立して、ようやくCO立法ができました。だがあまり立法は、使用されていないのです。この実情は、一般にあまり知られていません。だから、みんなは、あまり関心を見せてくれない（ふり向いてくれるのは、関係がある人だけだ）とぼくは、思います。

日本中いや世界中のみなさん、この実情を見て下さい。

詩

雲

緑丘小　四年　**上田良二**

白い雲
雲の名まえは、いろいろある
にゅう雲、すじ雲
みんな白くて、きれいだ、
どうして、空に雲があるのかな
雲は、わたのように、ふわふわして、やわらかいのかな
ぼくも、雲のように、
自由に、空をとびたい

はだかの王様

宮浦　**井上武信**

三井の経営者は
ハダカの王様と同じだ
保安第一、出炭第二と言う着物を着ているといっているが
何も着ていないではないか、よく見るとね
それを
「よく見える、まごとにきれいだ」と
下っぱ係員や第二の裏切り幹部め！
それの真実を見ているのは我々だ
だが――我々は保安第一の着物を
いかにして着せるか、また着るようにするか
皆で考え、皆で話し合おう

〝八月二日TVではだかの王様を見て〟

＜詩＞

死のドレイ鉱山

高椋龍生

人間のひとりふたり
殺さんなら出世せんバイ
二十年まえの三井鉱山のはなし
いま
その番犬どもは
依姑地にあごをつき出して
うの目　たかの目を光らし
ひとりびとりを出勤督励で狩り出して来ては
作業指示にしたがえ
とゴリ押しに保安手抜きの労仂をおしつける
かたほう
ウジ虫のごつ
殺されたっちゃ殺されたっちゃ
人手は集まってくる
と嘘八百大法ら吹きの労務屋
まだ
ばくはつの黒いツメあとのくすぶる
坑内にあいつぐ
ばくはつ　坑内火災　落ばん
地獄の釜の蓋があいているだけの炭鉱
ふが悪いではすまされぬ
つぎは　おれの番だ
とつぎつぎ見切りをつける
若いなかまたち
おれたちはちがう
おれたちはちがうぞ
おれたちは人間である証に
鉱山に腰を据える
三本線の坑帽を被るとき
キリリと身がひきします
さあ　闘いだ
おれたちのまわりにしあわせの花が咲き
未来を照らす明るい月が鉱山から出るまで
こぶしを握りしめ
足踏んばって　腹の底から
がんばろう！
差別と貧乏で
おれの根性を固めてくれた
死のドレイ鉱山よ
こんどは　お前に
火と燃ゆる
三本線の怒の火の玉を
たたきつけてやる番だ

第二組合員に捧げる詩

四山（福二分会）　**出雲善四郎**

おれは三池の日雇とり
金とよく、差別に負けて脱落し
今日も明日にも出勤よいが
いまじゃ現場で職制（係員）から
どれいの如くこきつかわれ
これが元にて体がもてず
明けても暮れても病院通い
あしまった後のこうかいおそすぎる
あなたはなんで脱落したの
一人しょんぼり哀れな人よ
やはり三池労組が正しかばい

×　×